

公益財団法人 メイト公德体財団便り



理事長：赤岩達重

メイト公德体財団理事長挨拶

平素から当財団の運営に対して一方ならぬご尽力を頂きまして厚く御礼申し上げます。

さて、今年の夏はラグビーワールドカップに日本中が盛り上がりました。日本ラグビーフットボール協会の副会長を務めておられる清宮克幸氏が今年の2月に当財団の講演会で講師を務めてくださった際に、ワールドカップを如何にして盛り上げて行くかが課題であると仰っておられましたが、結果は大成功であり、私事のように喜んでおります。

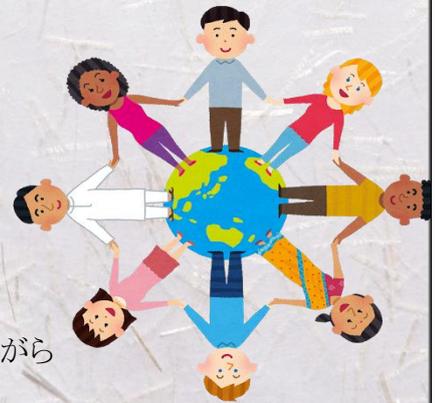
今回のラグビーワールドカップを観戦していて気づかれた方も多いと思いますが、ラグビー日本代表チームには多くの外国人選手が在籍しておられます。実はラグビーというスポーツには国の代表を選出する際に一切国籍を問わないという決まりがあるのです。日本代表チームに所属している外国人選手は、出身国のチームではなく、日本代表チームの一員として戦う決断をしてくださった方々です。逆に、今後は外国のチームで代表として活躍する日本人選手が出てくるかもしれません。これからのスポーツ選手には、国という枠を超えた活躍が求められているのです。

東京オリンピックの開催が、いよいよ来年に迫りました。

近代オリンピックの父であるクーベルタン男爵は、オリンピックとは「文化・国政など様々な差異を超え、友情、連帯感、フェアプレーの精神を持って理解しあうことで、平和でよりよい世界を実現する」場だと述べています。世界各国の選手、スタッフが大勢集まるオリンピックにおいては、他国のさまざまな文化や価値観を学び、日本が誇るおもてなしの心でお迎えしたいと思います。私も、来年の東京オリンピックを心待ちにしております。

当財団は、世界で活躍できる国際感覚豊かな青少年の育成について、微力ながらお力添えが出来るよう今後とも精進していく所存でございます。

皆様方におかれましては、変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



メイト公德体財団が目指す人づくり

徳育・知育・体育の成長を図るため、スポーツ活動を通じて、世界に通用する豊かな人格の涵養と自ら学び、個性を伸ばし、心身ともにたくましく、社会の発展に寄与し、誇りを持てる青少年を育成する指導者を養成する。

知育

自らの可能性を信じ、知識・技術の練磨に努め、自分を高める努力を重ねる。



徳育

個性を尊重して、社会的規範、感動する心、思いやりや感謝の心など豊かな人間性を身につける。



体育

スポーツを通じて他者と協調し心身の健全な育成につとめ共に生きる。



5つの誓い

1. さわやかな挨拶をします
2. 思いやりと感謝の心を持ちます
3. 率先して、目標に向かって常に努力します
4. 自らの可能性を信じ、知識・技能の習得に努めます
5. スポーツを通じて、心身を鍛錬し自分自身を確立します



第11回記念講演会開催報告

「勝てるチーム、 勝てるリーダー」

ラグビー ヤマハ発動機ジュビロ 元監督
日本ラグビーフットボール協会 副会長

講師： 清宮 克幸 氏

開催日：2019年2月24日（日）

開催場所：学び館サエスタ



人を育てる大切な三つのこと

人を育てるのに大切なものが三つあります。一つは愛。愛とか情熱とか、これは欠かせない。もう一つは言葉。チームを、組織を動かす強い言葉が必要です。最後の一つは独自性。今日はこの独自性について深く掘り下げていこうと思います。

独自性を前面に出す

独自性っていうのは、人とは違うこと、自分だからやること、自分にしかできないこと、そんなことです。試合に出るのに練習するでしょう、他の人と違う練習ってないですか？自分だけの練習方法が。それが独自性です。独自性を活かして他人と差をつけてレギュラーになる、スポーツもビジネスも同じです。この独自性をどう前面に出して戦って行くか、ということが大切です。

僕は高校生になってラグビーを始めました。ラグビーの強豪校はものすごい練習をするのですが、僕らはそこまで練習時間をとれていなかった、そんなチームがラグビー激戦区の大阪で優勝したのです。その答えが独自性でした。監督に言われた練習をやるのではなく、自分で考えた練習をすること。短い時間で結果を出さなければならない、そのためには他と違う練習をする必要があります。そこでキャプテンとなった僕が考えたことは、毎日試合と同じ形式の練習をすること。その練習でチームがとて強くなりました。

僕が早稲田のラグビー部監督の話を受けたとき、早稲田はものすごく弱かったんです。そんなチームを日本一に持って行かなければならないのです。普通にやっていたでは勝てないので、独自性を考え、自分たちのスタイルを作りに行く必要がありました。まずキックを捨てました、ラインもとれないのでやめて、独自性のあるスクラムをひたすら練習しました。そうしたら結果が出ました、1年目、2年目と立て続けに優勝できたのです。

独自性に自信を持つ

それから、自信を持つことも大切です。他人と違うことをやっていたら人は不安になる、世の中にはそんな人間が多いです。しかし逆なんです、人と違うということを自信に変えないといけない、それをヤマハ選手は身につけることが出来ました。

人がやらないことばかりをやるというのももちろん問題がある、人と同じことをやりながらスペシャルなことをやるのが理想ではありますが。しかし時間がない時、どちらかしかできない時、僕はそういう時はスペシャルなことを優先するべきだと思うんです。

これが出来てから次を、それが出来たらまた次を、そういう考え方をしていると時間切れになってしまいます。ぜひ自分たちにしかできないスペシャルなことを考えて行動してもらいたいと思います。

我が子の教育について

(ご息子のプロ野球選手、清宮幸太郎選手について)野球とは直接関係ないのですが、僕は息子に一つルールを課していました。それはどんな時でも「頑張ります」と言うてはいけないということです。

せっかく人前で喋る機会を頂いているのに、「一生懸命頑張ります、ありがとうございます」みたいな普通のスピーチをしてはいけない、それを小学校に入った頃からずっと徹底していました。

更に毎日の食事中に、今日あったことを30秒で喋らせる、そういった練習をやっていました。これも独自性です。

— 公益財団法人 メイト公徳体財団 —

住所 / 〒709-0514 岡山県和気郡和気町佐伯526-3 (株)メイト内
TEL / 0869-88-0243 FAX / 0869-88-0248
担当 / 後谷・兼田
ホームページ / <http://www.mate.or.jp/>



メイト公徳体財団へのお問い合わせはこちらまでお願いいたします。